

この6月から7月前半の気候は全国的に記録的な高温となり、各地から「暑い暑い」というニュースとともに「熱中症にご注意」というコメントが流れている毎日となっています。ヨーロッパでも同様のようですが、この気候の変化を「自然の流れ」としておいてよいのか、何とか人の力で抑えていくべきなのか。「気候変動などという報告は信じない」という某国大統領の発言など、これでよいのかと思うところでは。

「天災は忘れたところにやってくる」とは、寺田寅彦の語としてよく引用されてきましたが、昨今は「忘れないうちにやってくる」ようです。感染症も同様に感ずるところですが、いずれにせよ、経験をまとめ、次に生かし、少しでも次の被害を減少させるようようにしていく、不斷の努力が求められるところです。

今月号の特集は、先月号に引き続き「大災害と子どもたち—Excluded and Invisible」の後半「そのⅡ」となります。災害対応の基本原則として、情報管理、トリアージと搬送、被災者そして支援者にも必要な心のケアについて、小児災害医療の特殊な対応として、災害時の子どもの心のケア、避難所の母子保健、発達障害・アレルギー・特殊ミルクを要する子どもたち、外国語圏の子どもたちなどへの医療支援について、そして今後の課題として、いまだに見えない課題と災害時周産期医療の新たな支援などが、主な

テーマとなっています。阪神・淡路、東日本、熊本そして今回の能登半島と、辛い経験を経て相当進歩したと思われるところもありますが、遅々として進まずあるいは新たな課題も出てきているところです。経験をした者が伝え、訴え続けていかななくてはいけない事柄ですが、本特集Ⅰ、Ⅱはその一端を担うものと編集者一同、思ってきたところです。日常的に遭遇するようなことではもちろんなく、そうではないことを願うところですが、一方いつ、どこで、誰が巻き込まれるかわからない昨今、小児科医の備える常識としてご一読いただければ幸甚です。

目で見える小児科には「ヒトライノウイルス感染の関与が疑われる多形紅斑」の報告を、研修医の筆頭著者として投稿いただいています。是非若手医師の経験に目を通していただき、また本誌をそのような場として指導に当たる先生方にご利用いただければ幸いです。トピックスとしては、スタートして5歳児健診をすでに長く手掛けられている地域からの報告、貴重な症例報告、そして日本医大小児科の外国業績紹介は今話題のRSワクチンによる母子免疫効果など興味深い文献の紹介を頂いています。

暑い中、冷たいもののどを潤しながら本号に目を通してくださいますよう、お願い申し上げます。

(岡部 信彦)

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第66巻 第7号 7月号

2025年7月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 49,500 円（本体 45,000 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。